

静岡県の茶園における侵入害虫チャトゲコナジラミの発生動向

小澤朗人・内山徹（静岡農技研・茶研センター）
・小杉由紀夫・芳賀一（静岡県病虫害防除所）

チャトゲコナジラミは、我が国では2004年に京都府で初確認されたチャの侵入害虫で、近年、全国に分布が拡大している。静岡県では、2010年10月に菊川市の茶園で初確認され、その後、県内の他地域でも発見されるようになった。野菜花卉類では侵入害虫がたびたび問題となっているものの、チャでは侵入害虫の事例・経験が無く、指導機関も対応に苦慮している。また、牧之原地域のように5,000ha余もの連続した大面積茶園での発生は国内事例が無く、今後の経過については予断を許さない。

本講演では、一昨年の初確認から現在に至るまでの静岡県内における分布拡大の経緯と、昨年実施した本種の発生生態の調査結果の一部を報告する。

1. 県内初確認

2010年10月12日にJA遠州夢咲から菊川市の茶園でチャトゲと思われる虫が発生しているとの連絡有り。当日、現地を確認した結果、すでに甚発生で激しい「すす病」の発生もみられた。この地区の発生源は、2年前に近畿地方から購入した苗を定植した無農薬栽培の幼木園と推察された。

2. 分布調査と他地域からの発生報告

2010年11月上旬に関係者が集まって初発地周辺における分布調査を実施。発生茶園から半径約2km以内のほぼすべての茶園を対象に成虫の寄生の有無を調査した。その結果、半径約1~1.5kmの範囲に拡大していることを確認。一方、これとは別に牧之原市や磐田市、島田市でも発生が確認され、これらの発生源は初発の菊川市とは別と考えられた。牧之原市では、すでに甚発生の状態であったが、近隣に幼木園は無く侵入源は不明であった。

3. 新たな発生地が続出、急速な分布拡大

さらに2011年春以降、県東部や中部地域などからも次々と新たな発生の連絡が入り、東部、富士、中部、中遠、西部、さらに2012年には川根地区でも確認され、県内ほぼすべての主要茶産地で発生園が認められる状況となった。侵入ルートは不明な場所がほとんどであったが、一部ではサザンカなど緑花木の苗での持ち込みが原因と推察された。

